

国内マーケット

教習所での試乗会增加

若者との接点に活用

メーカー・インポーター

教習所で試乗会を実施する自動車メーカーが増えている。自動車教習所でイベント運営事業などを手掛ける日本カーライフアシスト(平間研司社長、東京都港区)によると、教習所で行う試乗会について自動車メーカーや輸入車インポーターからの依頼が増加しているという。同社を通じ、1〜3月に開催する試乗会(予定含む)は、前年の約2・5倍となる50件。クルマ離れといわれる中、若者と触れる貴重な接点として教習所を活用するメーカー、インポーターが今後も増えそうだ。

試乗車は、コンパクトカー いるハイブリッド車(HV)が主流。教習車でも増加してと比較するためHVの導入が

目立つほか、軽自動車も少なくない。また、価格競争力が高い車両を投入している輸入車インポーターも実施回数が増えている。比較的購入しやすい価格帯の車両や新しい技術を搭載した車両に触れてもらうことで自動車の購買意欲や興味関心を喚起する狙いだ。

教習所に通う生徒の大半は、10〜20代の若者。若者の免許取得率は微減にとどまっているものの、以前に比べると免許取得後すぐに車両を購入する若者は大幅に減っているとみられる。

これまで教習所の試乗会は、ディーラー独自の施策として実施しているケースが多かった。これに対して最近では、メーカー・インポーターが教習所での試乗会実施に意欲的な姿勢を見せている。各社がクルマ離れに対する危機感を強めているためとみられる。